

まちの話題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお寄せください。



被災者のために役立てて

市内3中学校の生徒が53万円を寄付



▲「若い世代の人たちががんばってくれたことが本当にうれしい。ありがとう」と県庁応接室で生徒たちに語る県知事

福岡、福岡東、津屋崎の3中学校の生徒が熊本地震の被災者のために募金を集め、5月31日に小川県知事に手渡ししました。

募金活動の発端となったのは、4月に中学生たちと県知事が対談した県事業「知事のふるさと訪問」でした。活発な意見交換の中で、各学校それぞれに取り組んでいるボランティア活動などを県知事はたたえながらも「市内中学生がみんなで一体となった活動に広げては」とアドバイス。生徒たちはしっかりと受け止めて各学校に持ち帰り、生徒会を中心に自主的に募金活動に取り組みました。

県庁を訪れていた福岡東中学校の生徒会長、梶木麻有さんは「学校のみんがとでも気持ちよく募金してくれました。市内の中学生みんなの気持ちで、地震で困っている人たちに役立てばうれしい」と語っていました。

おめでとーございませう

春の叙勲

前市長の池浦順文さん(若木台1区)が、春の叙勲で旭日双光章を受章しました。

市長として1期の市行政と、その前は福岡町長として2期の町行政、合計3期にもわたる地方行政への功績によるものです。



▲県庁で小川県知事から受章の伝達を受ける池浦順文さん

池浦さんは「市民の皆さんの御協力のおかげです。ありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。厚くお礼を申し上げます。今後も市のためにできる限りの努力と協力をさせていただきます。ありがとうございました」と受章の喜びを語っていました。

▲花田武治さん(勝浦区)

森のくまさん登場

本木川自然公園ほたるの里でほたる祭り



▲子どもたちでにぎわうエア遊具

清らかな水と豊かな緑が残る本木川自然公園ほたるの里で6月4日と5日、ほたる祭りが開催されました。

初日はあいにくの雨でしたが、二日目は天候に恵まれ、多くの人でにぎわっていました。恒例の露店やトラックステージによる音楽イベントなどに加え、今年はエア遊具の大きなくまさんも登場。訪れた家族連れは「幻想的なほたるに加えて遊具もあり、子どもたちも大喜びです」と楽しんでいました。

身近な自然環境を考える

北部九州地域環境シンポジウム開催



▲福津市の環境にも目を向けていると語るマーク教授

環境シンポジウムが5月28日に光陵高校で開催されました。生物多様性への配慮とまちづくりの焦点を当てた講演や、環境保全に関わる市内の高校生による発表などが行われました。講師の一人、アメリカ合衆国フロリダ大学のマーク・ホステットラー教授は、フロリダの先進的な取り組みを紹介しながら「地域や行政がいつしよになった環境保全が重要です」と語り、多くの参加者に刺激を与えていました。

うみがめ産卵5年ぶり

福岡海岸で卵を確認



▲静かな場所で保護するために掘り出された卵

福岡海岸で6月16日、うみがめの産卵が確認されました。市内での確認は5年ぶりです。近くの飲食店関係者が海岸を散歩中、砂浜にうみがめが上陸した跡を見つけ、市うみがめ課に連絡。同課とうみがめ保護団体「勝浦うみがめ塾」が調査したところ135個の卵が見つかりました。長年にわたる海岸清掃などが実を結んでいるのかもしれない。

より効率よく

二つの庁舎を統合



▲業務開始式のテープカット

福岡庁舎整備工事の完了に伴い6月13日、福岡庁舎と津屋崎庁舎を一本化しました。始業前に行われた業務開始式で、小山市長は「合併して11年。市の財政は大変厳しい。職員や市民の力を結集して、よりすばらしい都市づくりを目指していきましょう」と挨拶。合併以来の分庁方式を終え、業務の更なる効率化などを目指します。